



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

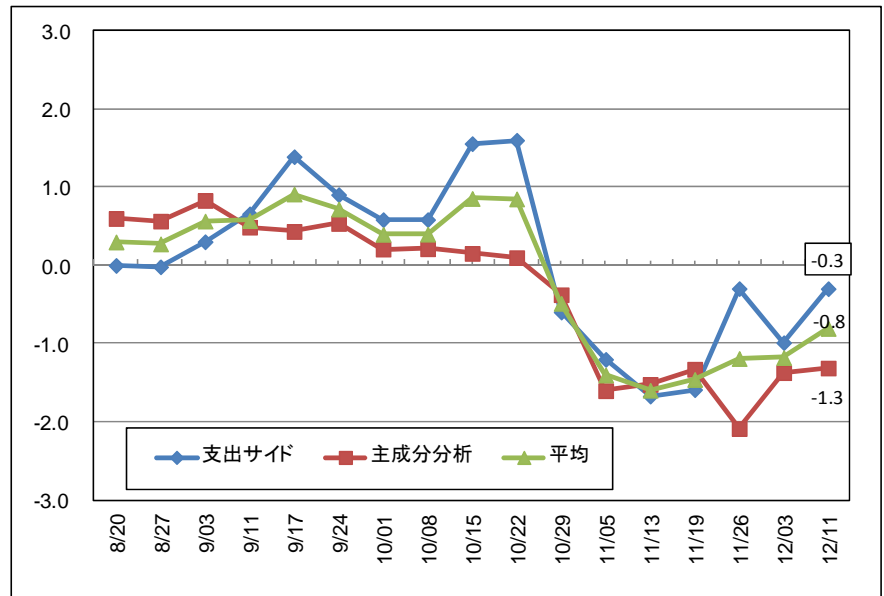
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2012年12月11日)

## ポイント

- ▶先週発表された月次データ更新に加え、7-9 月期 GDP2 次速報値が予測に追加された。
- ▶7-9 月期実質 GDP 改定値は前期比年率-3.5%となり、1 次速報値から横ばい。今回の改定の結果、2012 年度成長率への下駄が 0.3%ポイント前回から上方修正された。
- ▶今回の改定で 2 期連続のマイナス成長となり、3 月に景気は山を越えたという市場コンセンサスを確認する結果となった。
- ▶注目していた 10 月の消費総合指数は前月比+0.5%上昇し 2 ヶ月ぶりのプラス。10 月実績値は 7-9 月期平均比+0.7%高い水準となっており、10-12 月期の最初の月として好調なスタートとなっている。
- ▶今週の CQM(支出サイド)は、10-12 月期の実質 GDP 成長率を、内需は小幅縮小するが、純輸出は横ばいとなるため前期比年率-0.3%と予測。先週の予測(-1.0%)から上方修正された。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2012Q4 (%、前期比年率換算)



### <11 年度 GDP 確報値が上方改訂されたため、12 年度成長率予測は 0.3%ポイント上方修正に>

先週は、11 月の財政資金対民間収支、乗用車新車販売台数、10 月の毎月勤労統計、消費総合指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況が更新された。また 7-9 月期 GDP2 次速報値(10 日発表)が予測に追加された。

7-9 月期実質 GDP 改定値は前期比年率-3.5%となり、1 次速報値と同じ結果となった。今回は通常の改定に加え、2010 年度確々報及び 2011 年度確報を反映している。11 年度の実質 GDP の確報値は前年度比+0.3%となり、速報値ベースの -0.0%から上方修正された。この結果、12 年度成長率への下駄が 0.3%ポイント前回から上方修正されている。注目すべきは、今回 4-6 月期の実質 GDP 成長率が前期比年率-0.1%となり、前回から 0.4%ポイント下方修正されたことである。この結果、2 期連続のマイナス成長となり、3 月に景気は転換点(山)を越えたという市場コンセンサスを確認する結果となった(12 月 ESP フォーキャスト調査では 87.2%のエコノミストが景気は山を越えたとみている)。

11 月月次レポートで指摘したように、今後の予測の変化のポイントは 10 月の消費総合指数の結果である。先週発表された消費総合指数は前月比+0.5%上昇し 2 ヶ月ぶりのプラスとなった。10 月の実績値は 7-9 月期平均比+0.7%高い水準となっており、民間消費支出は 10-12 月期の最初の月として好調なスタートとなっている。

今週の CQM(支出サイド)は、10-12 月期の実質 GDP 成長率を、内需は小幅縮小するが、純輸出は横ばいとなるため前期比年率-0.3%と予測する。先週の予測(-1.0%)から上方修正された。この結果、2012 暦年の実質 GDP 成長率は+2.0%(先週：+1.6%)となろう。また 2012 年度の実質 GDP 成長率を+1.2%(先週：+0.9%)と予測している。すでに述べたように、いずれも成長率の下駄の上方修正が影響している。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550